

The Jumonji Press

新座だより

No. 35
2011.5

大学に通える私たち だから学ぼう 被災地を思いやろう

特集 ご卒業・ご入学、おめでとうございます！ ～新「人間生活学部」スタート、学長就任の挨拶～

- 06▶ 2011年度教員役職紹介
- 08▶ 2010年度就職報告 「就職の十文字」、全国平均超え
- 10▶ 十文字ニュース リーダーズキャンプ2011／理事長が河北新報社訪問 etc.
- 14▶ 海外活動レポート 橋本ヒロ子副学長が国連で演説
- 15▶ 入試・公開講座情報
- 16▶ 短期大学部改組／東日本大震災 復興支援への取り組み

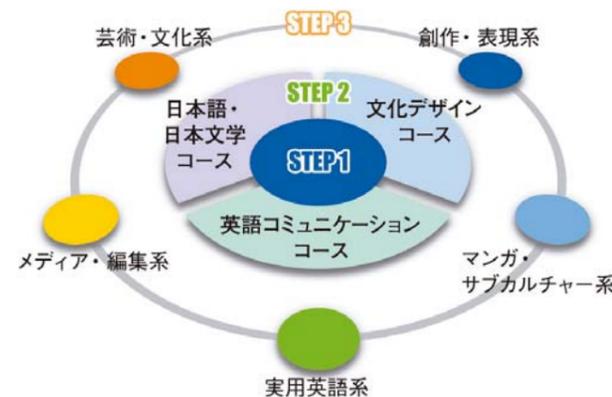


2012年4月設置予定

表現文化学科を新設

短期大学部が変わります！

■表現文化学科は3つのコースで構成されます



表現文化学科は、国際社会における多様な文化を学ぶことを通して、日本文化と英語文化圏の本質を理解し、豊かな教養とみずみずしい感性および創造力を持つ人間を養成します。あわせて、社会人としての基礎力を身につけ、たくましく生きる力をもって世界に貢献できる、コミュニケーション能力の高い人材を育成します。

● 表現文化大賞 ●

- 表現文化学科の新設を記念して、皆さんの「表現」を公募します
- テーマは「跳ぶ」
- 応募締切は5月31日(火)
- 詳細は短期大学部HPへ
<http://www.jumonji-u.ac.jp/expression/>

■社会に飛び立つ力をデザインする学び

- STEP1 基礎科目 …… ひとりの“人間”としての土台をつくる
- STEP2 専門基幹科目 …… 自分の専門の基礎をつくる
- STEP3 専門選択科目 …… 自分らしさを磨く

東日本大震災 復興支援への取り組み

学生の安全・告知に万全

十文字学園では、大学(大学院)・短大部・留学生別科を統括した東日本大震災対策本部(本部長・横須賀薫学長)が発足した。入学式の実施、授業開始などにあたっての学生への配慮と告知、安全面の万全の対応、義援金をはじめとする被災地支援などを協議し、トップダウン方式で喫緊の課題に対処している。中学・高校、附属幼稚園を含めた全学園規模で、不測の事態にも備える。

大学で義援金活動

本学では横須賀薫震災対策本部長の呼びかけで、学内の募金箱に学生・教職員からの義援金が集められている。学生の動きも活発で、4月5日(火)の入学式では、児童教育専攻有志が募金箱を持って新座キャンパス内に立った。また、4月6日(水)には、人間福祉学科4年生が新座市社会福祉協議会と協力し、校内で義援金を募った。4月18日(月)現在、総務部に230万4089円が寄せられている。

納付金特別措置を実施

十文字学園女子大学・短期大学部では、地震によって被害を受けた学生に対する納付金特別措置を下記の通り講じています。

- [新入学生] 被害の状況に応じて、入学登録料・初年度の納付金の全額または半額を免除。
- [在校生] 被害の状況に応じて、納付金の全額または半額を免除。

編◆集◆後◆記

東日本大震災により、本学では学位授与式を中止しました。今、悲しみの中で、「自分ができることは何なのか」と模索し、行動に移すことが求められています。学内でも学生らが募金活動を行いました。募金活動をする人、募金する人、ボラ

ンティアに参加する人、それぞれの取り組みが大きな変化を社会に与えています。『新座だより』は皆さんにこうしたキャンパスでの動きを伝えながら、学園を明るくしていきます。どうか学生記者を応援してください。(加藤優美:編集長)

*「新座だより」へのご意見・ご要望は、kikaku@jumonji-u.ac.jpまで。

新座だより第35号 2011年4月25日発行
 発行人: 岡本英之(企画室長)
 編集長: 加藤優美
 監修: 大西正行 編集事務: 三野裕子
 発行: 十文字学園女子大学・十文字学園女子大学短期大学部・十文字女子大附属幼稚園
 〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28
 Tel. 048-477-0555 (代表)



Enrollment ご入学、おめでとうございます

初々しいスーツ姿の新入生が4月5日(火)、暖かな日差しの中、咲き誇る桜のような笑顔で次々に新座キャンパスの門をくぐりました。目を覆う東北の被害は誰の脳裏にも焼きついており、入学式会場には、なおのこと「しっかり勉強しなければ」という緊張感がよぎりました。



笑顔の新入生たち。

大震災の犠牲者に全員が黙祷。

桜舞うキャンパスで入学式 人間生活学部も始動

新年度から新たに「人間生活学部」がスタートし、学生たちにとっては、自分の足で立つための「学びの志」を固める大事な節目となった。多くの大学が入学式を延期する中、「安全対策を徹底して、予定通り、入学式を簡素厳粛にやり遂げよう」との大学の基本方針に沿い、平成23年度入学式が4月5日(火)、本学記念ホールで開催された。

新入生総数はのべ943名(大学院6名、大学813名、大学3年次編入9名、短大部99名、留学生別科16名)で、多くの保護者も教職員とともに拍手を送った。

式辞に立った横須賀薫学長は、大震災に触れ「仕事をすることには、困難に直面すること、悲しいできごと遭遇するということが含まれているものです。今日、皆さんはそういった大人の社会の入口に立ったのだということも自覚して頑張ってもらいたい」と激励した。

また、式の冒頭では震災の犠牲者に対し黙祷が行われた。この時期だからこそ、新入生は学べるこのありがたさを深く実感し、一日一日を無駄にせず学園生活を送ろうという意識が芽生えたようだ。大きな希望を胸に、新たな道への第一歩を踏み出した彼女たちには、きっと充実した毎日が待っているだろう。(取材：文・今井友里子副編集長)

学長就任のご挨拶 清潔な美しさに驚いた4年前 今後の学園の発展に努力

横須賀薫新学長



平成19年4月6日、初めて本学の入学式に参列したときの感銘が今でも深い記憶となっている。大会場に着席している900人近い新入生一人ひとりを見分けることは困難だったが、たいへん清らかな学生の集団を見る思いであった。ずっと昔、都内の女子短大で授業をしていたときには、大教室にむせかえる化粧品匂いに辟易し、それから女子大というものにある種の偏見を持つようになっていた私からすると、それは驚きであった。その清潔さはむしろ質朴と言ってもよい服装や髪の色によってつくられていて、背景に、実直で堅実な家庭の存在を偲ばせるのであった。

また、在校生代表が歌ってくれた学園歌にも驚かされ、感動した。山や川などの自然が歌われたり、美辞麗句が並んだりするのはなく、「世の中に立ちてかひある人と生きなむ」という句を核にした簡素な短詩は、長く歌い継がれてきたことを如実に示すものだった。

白状すると、私はそれまでこの大学の存在も新座という地名も知らなかった。十文字一夫理事長から、新しくつくる小学校教員養成課程を手伝ってほしいと依頼され、もともと関東圏の出身であったし、長年にわたる国立大での教員養成の経験を生かしてもう一仕事してみるか、家庭にこもって家人にうつつとうしがられるよりはましか、という動機も働いてお引き受けたのだった。それから4年、まさか学長の職に就くことになると思ってもよらないことだった。

さらに、若い頃に仲間として交流したことがあった新座市の金子廣志教育長と再会し、その縁であつという間に地域連携が活性化することになり、新座の地もゆきずりの街ではなくなりました。

遠目で感動した学生群も、一人ひとりと接し、学びの場に立ち会うようになってみればそれはそれ、課題も多く見えるようになった。大学の本格的な発展はこれからである。

十文字学

「資生堂」冠講座が開始

23年度4月、従来の2学部(社会情報学部/人間生活学部)を1学部7学科へと放射状に再編成し、新たな「人間生活学部」がスタートした。これにより、学生の横断的履修がより自由度を増し、昨年来より各学科ごとに教員が協議を重ね、準備してきた科目講義も満を持して実施された。

改組のもう一つの特徴は、学園歌の精神を今に生かす全学共通科目「十文字学」だ。「女性を学ぶ」「地域・社会を学ぶ」「人間・環境を学ぶ」を3つの大きなテーマとし、総合科目では企業・団体と連携した冠講座や総合ゼミを含む18科目を配置。特に、資生堂による冠講座「瞬も、一生も、美しく」(23年度前期のみ)は、全国でも本学でしか受けられない貴重な講座だ。さらに、初年

次教育として、好書から滋養をくみ取る「読書入門」もスタートする。

留学生別科では、生活クラスの新設、日本文化理解や体験学習を重視した授業を展開。さらに、短期大学部では24年度の改組に向け、表現文化学科(設置予定)の準備を進めている。

2011年4月からの新しい学部・学科構成

- 人間生活学部
 - 幼児教育学科/児童教育学科/人間発達心理学
 - 学科/食物栄養学科/人間福祉学科/生活情報科/メディアコミュニケーション学科
- 短期大学部
 - 文学科
 - 国語国文専攻/英語英文専攻

北京語言大学から お見舞い

崔学長、入学式の来校は中止に
本学と友好校提携協定を結んでいる北京語言大学(崔希亮学長)から、大地震発生翌日の3月12日(土)、「私たちも大変心を痛めております。ご自愛ください」と、被害を案じるお見舞いの連絡があり、本学からは北京語言大学のご厚情に感謝の意を表した。

入学式では、北京語言大学の崔希亮学長が来校し、直接祝辞をいただき予定になっていたが、大震災に伴う電車の運休の影響などを勘案し、訪日を中止せざるを得ない旨の通知があった。

Graduation 社会へと巣立った789名の卒業生



3月19日(土)に本学で予定されていた学位記授与式は中止となりましたが、新座キャンパスでは当日、学位記の手渡しコーナーを臨時で設置しました。多くの卒業生が訪れ、同級生や教職員と一緒に「卒業」の感激をかみしめました。

地震で式典は中止 それでも新座に卒業生の輪

本学では22年度、大学(社会情報学部/人間生活学部)から668名、短期大学部から121名、計789名の卒業生が旅立った。千年に一度ともいわれる東日本大震災の影響により、3月19日(土)の学位記授与式は中止されたが、当日、新座キャンパス内に「学位記手渡しコーナー」を学部ごとに設置。交通機関の一部運休による不便もいとわず、多くの学生が訪れた。その一方で、本学では足を運べない学生のために、学位記などの郵送体制を完全に整えたこともあり、自宅で家族とともに晴れの門出を祝う学生も多かった。

平成19年に誕生した人間生活学部児童



① 十文字理事長と記念撮影。② はかま姿で喜びをかみしめる卒業生。③ 小笠原教授から学位記を受け取る中国出身の留学生・キユウ ヒギさん。④ 4月からヒロセ電機株式会社就職。⑤ 十文字大元氏・こと先生の銅像前で。

卒業生の皆さんへ 誌上メッセージ

卒業は「人生のはじまり」 ブラッシュアップを続けよう

22年度の卒業式・学位記授与式が、東北を中心とする大震災の影響で中止となったことを大変残念に思います。あらためて、大震災で被害にあわれた方々に、心からお見舞いを申し上げます。

22年度は未曾有の就職難であり、大変心配していましたが、本学の卒業生においては、むしろ前年度をやや上回る成果を得るとともに、全国平均から見ても高い内定率を勝ち取ったことを喜んでおります。これは、ひとえに本学を卒業した先輩方が社会で活躍され、その高い社会的評価が就職活動に取り組み後輩の評価につながっていることにほかなりません。重ねて関係各位に厚く御礼申し上げます。

今は、まさに時代の変換期にあります。50年前ほどの会社に勤めるか、あるいは、どの学校に入るかで自分の人生が決まるというのが現実でした。しかし最近、

十文字一夫理事長



終身雇用や年功序列の雇用制度が崩れ、特に若い人たちの労働の価値観が大きく変わりました。卒業後、職業に就いて、そこで一生が終わるわけではありません。その仕事をしながら、次の仕事にもチャレンジしていく、そんな時代になってきているのです。チャレンジすることによって自分自身をブラッシュアップしていく。そして次のステップでも社会に貢献し、さらに次のステージへと自分を高め続けていくライフスタイルが、若い人たちのトレンドになっていくでしょう。

そうした意味において、卒業という節目は、「終わり」ではなく、「人生のはじまり」です。どうか、皆さんは「社会の変化に柔軟に対応できる人材を世に送り出したい」という本学の教職員一同の思いを胸に、自分自身を磨き続け、すばらしい人生を送ってください。

女性が輝く時代へ 卒業生の高い志に期待

女性の力が発揮されにくく、「女性活躍小国」と言われるを得ない日本の現状は問題であり、今こそ、経済や社会の発展に女性の力をもっと生かせる仕組みへの

宮丸凱史学長



改革を、国民全体で進めるべき時期です。皆さんには、女性として高い志を持って努力されることを期待します。

答辞

十文字の卒業生という 誇りを胸に



人間生活学部人間発達心理学科
田島 綾さん

卒業を迎え、十文字学園での学生生活を振り返ってみると、さまざまな思い出が心の中を駆け巡ります。

学問の楽しさを知った人間発達心理学科での学び、学校における健康の重要性と、人を育てることのすばらしさを実感した養護実習。同じ目標を持つ仲間とともに挑んだ教員採用試験。あつという間でしたが、実りある学生生活を送ることができました。

私は4月から養護教諭として働きます。困難に直面することもありますが、本学の卒業生であることに誇りを持ち、社会に貢献できる人間になれるよう努力します。

最後に、今回の地震で被災された皆様ならびにそのご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と被災地の日も早い復興をお祈り申し上げます。

2011年度 教員役職紹介

学長(大学・短大)／21世紀教育創
生部共通教育センター長



横須賀 薫

副学長(募集・就職担当)(大学・
短大)／21世紀教育創生部キャ
リア教育センター長



橋本ヒロ子

図書・情報センター長(大学・短
大)／メディアコミュニケーション
学科長



安達一寿

児童教育学科長



坪倉紀代子

幼児教育学科長



栗原直樹

人間福祉学科長

副学長(総務担当)(大学・短大)／
人間生活学研究科長



志村二三夫

学長補佐(大学・短大)



東 聖子

健康管理センター長(大学・短大)



齋藤麗子

人間発達心理学科長



綿井雅康

21世紀教育創生部教職課程セン
ター長



狩野浩二

副学長(教育担当)(大学・短大)／
21世紀教育創生部リメディアル教
育センター長



増田吉史

留学生別科長／国際交流センタ
ー長(大学・短大)



大西正行

大学開放・地域連携推進センタ
ー長(大学・短大)



星野敦子

食物栄養学科長



濱口恵子

21世紀教育創生部特別支援教育
センター長



岩井雄一

人事異動 (2011年3月31日～4月1日)

【大学】教員

〈退職〉任期満了・定年退職含む

学長宮丸凱史
社会情報学部教授若山皖一郎
同教授佐藤公正
人間生活学部教授萩原昌好
同教授鎌田恒夫
同教授星三和子
同准教授松野智子
同講師垂水謙児
社会情報学部特別任用教授佐々木顕
人間生活学部特別任用教授神山輝夫
〈新任・特別任用教員〉
人間生活学部教授大西正行
同教授岡上直子
同教授柏葉修治
同教授山田陽子
同教授山本 茂
21世紀教育創生部教授阿子島茂美
同教授岩井雄一
同教授小笠原典子
同教授高橋京子
同教授柳本雄次
人間生活学部准教授大宮明子
同准教授廣坂多美子
同講師齋藤千景
同講師田中東子
同助教石田有理

同特別任用教授内田伸子
同特別任用教授江川玖成
同特別任用教授杉原 隆
同有期助手権 明愛
〈客員教授〉
客員教授佐々木正峰

客員教授堀合文字
客員教授湊 和夫
客員教授好本 恵
客員教授渡辺 保
〈昇任〉
人間生活学部教授新井幸恵
同教授小野裕次郎
同教授片居木英人
同教授鈴木弘貴
同教授名倉秀子
同教授布施晴美
人間生活学部准教授飯田路佳
同准教授井上久美子
同准教授大山博幸
同准教授設楽優子
同准教授平田智秋
人間生活学部助教梶野涼子
同助教佐々木菜穂
同助教鈴木晴子
〈役職〉
学長(大学・短大)・21世紀教育創生部共通教育
センター長横須賀薫
副学長(総務担当)(大学・短大)・志村二三夫
副学長(教育担当)(大学・短大)・リメディア
ル教育センター長増田吉史
副学長(募集・就職担当)(大学・短大)・キャ
リア教育センター長橋本ヒロ子
学長補佐(大学・短大)東 聖子
留学生別科長・国際交流センター長(大学・短
大)大西正行
図書・情報センター長(大学・短大)・メディア
コミュニケーション学科長安達一寿
健康管理センター長(大学・短大)・齋藤麗子
大学開放・地域連携推進センター長(大学・短
大)星野敦子

幼児教育学科長坪倉紀代子
児童教育学科長黒瀬任通
人間発達心理学科長綿井雅康
食物栄養学科長濱口恵子
人間福祉学科長栗原直樹
生活情報学科長牧村信之
教職課程センター長狩野浩二
特別支援教育センター長岩井雄一
図書・情報副センター長(大学・短大) 武田比呂男
国際交流副センター長(大学・短大) 福田 仁
21世紀教育創生部共通教育センター十文字学
WG主任宮城道子
21世紀教育創生部共通教育センター語学教育
WG主任島村豊博
21世紀教育創生部共通教育センター保健体育
WG主任山本 悟
21世紀教育創生部共通教育センター情報処理
WG主任中尾茂子
21世紀教育創生部共通教育センター課題教育
WG主任小笠原典子

【短期大学部】教員
〈退職〉任期満了・定年退職含む
文学科准教授アリス・スウェンソン
同特別任用准教授柿元資子
〈新任教員〉
文学科講師星野祐子
〈役職〉
文学科国語国文専攻主任赤岡恵都子
文学科英語英文専攻主任浜 由美子
【幼稚園】
〈新任〉
教諭藤竹 梓
〈嘱託教員〉
主事大井登子

宮丸凱史学長退任のご挨拶

未曾有の大震災にただただ驚くばかり
です。お亡くなりになった方々のご冥福を
お祈りし、多くの被災された方々の一日
も早い復興と安寧を祈念いたします。

退任にあたり御礼のご挨拶を申し上
げます。

平成13年4月着任以来、ちょうど10年
間十文字学園にお世話になりました。
食物栄養学科と幼児教育学科の2学科
による人間生活学部の新設や、その後の
人間発達心理学科と人間福祉学科の設
置、さらに新たな改革改組など、短期間
に何かと変化の多い期間でした。その
間、学部長や学長の職務を遂行させてい
ただきました。もとより微力で十分な
任務を果たし得なかったことを、お詫び
申し上げます。

教職員の皆様方や、保護者会、同窓会
の方々には、就任中多大なご指導ご協力
をいただきとともに、幅広くにわたって
温かいご厚誼を賜りましたことを深く
感謝申し上げます。

新年度からの教育改革、組織改革全
体が軌道に乗り、成果が上がるとも
に、新たな十文字学園がさらなる発展
を遂げますよう心から祈念いたしてお
ります。



自分の強みや価値感を認識し 社会人基礎力を高めた2日間

～リーダーズキャンプ2011～

人間力を磨き、キャリアアップを図る「リーダーズキャンプ2011」。今年も、2月14日(月)・15日(火)の2日間にわたり、国立オリンピック記念青少年総合センターで行われ、大学・短期大学の1年生と2年生、計87名が参加した。

笑顔が絶えないワークショップ。十文字学園の一員として帰属意識を高め、自己成長の一歩を踏み出した。



意見をぶつけ合い 十文字の魅力を発表

合宿のミッションとして学生に課せられたのは、「十文字の理念・価値を言語化すること」。冒頭では、株式会社アクティブラーニング代表取締役社長・羽根拓也氏がセミナーを行い、「自分の価値観をしっかりと持っている人は意思決定が早く、会社からも求められる存在だ」と説いた。

羽根氏のメッセージを受け、まず学生が取り組んだのは、自分の価値観を探すためのグループワーク。用意された社会人基礎力度チェックシートを使い、「考え抜く力」「前に踏み出す力」「チームで働く力」について自己分析した。また、人生で大切なものを3つ挙げる作業では、「家族・友達・お金」「思いやり・愛・勇気」など、回答はさまざま。多くの価値観をぶつけ合う活発な議論へと展開した。

その後、グループごとに「十文字で学ぶ価値とは」「どんな人間として社会に出

ていくべきか」そのために必要なことは何か」について考え、それらをまとめたものをひとつのキャッチコピーとして発表。いくつかのプロジェクトにわかれて行われ、キャッチコピーを作成した背景や、具体的なアクションについても説明した。

最後に、各ブロックで1位となった4チームが全員の前で最終発表を行った。4チームのキャッチコピーはそれぞれ、「Hard to Hand @ 9」「十文字ブランド」「十文字だからこそ」「オールラウンドプレイヤー」。優勝したのは「十文字だからこそ」を掲げたチームで、十文字の魅力の確に表現していると高い評価を受けた。

学生は合宿を通して、社会人基礎力の必要性を実感し、本学の教育理念でもある「幅広い職業人になる」ためのモチベーションを高めたようだ。
(取材 文 小林いずみ副編集長)

気づかなかった思いが浮き彫りに

合宿終了後、参加した学生から次のような感想を聞くことができた。

- グループワークの中で「あと一年で死ぬとしたら、何をしたい?」という質問が印象的だった。「世界遺産などの異国の文化に触れて刺激を受けた」と強く思い、自分の考えが鮮明になった。
- 「クイズに当選して3億円が手に入ったら何のために使うか」という質問は、自分のお金に対する価値観を認識するよい機会になった。
- 昨年に続き2度目の参加だった。ある程度内容を把握していたので余裕ができた。たくさんの人

と触れあうことができた。あらためて、コミュニケーション力の大切さを実感した。

今回の合宿では、参加者が自分の意見をしっかりと持ち、積極的に発言する姿が多く見られた。学生それぞれが目的意識を持ってキャンプに参加し、刺激し合い、楽しんでいようだった。この経験を生かし、今後、大学でも交流の輪を広げてほしい。また、「人間力の研鑽」という合宿の目的は、今春スタートした「人間生活学部」の教育目標とも一致していると強く感じた。
(小林いずみ副編集長とめ)

企画アドバイザーから

「人間力」を意識しよう

メディアコミュニケーション学科
松永修一准教授



リーマンショック以降、社会ではグローバル化が加速し、企業の採用方針も変わった。企業が新入社員に求めることは、やはり「人間力」だ。就職活動においては「学生時代に人間力を高めるための活動をしてきたか」という点が非常に重要視される。今回の合宿には、まさにそれに関連することが散りばめられており、学生には本学での学びの中でも、常に意識しておいてほしい。また、自己成長促進のきっかけづくりは、われわれ教員の大きな課題であると実感した2日間であった。

参加学生の声

理事長・学長が仙台の河北新報社を訪問

十文字一夫理事長、横須賀篤学長、企画・募集担当の岡本英之副本部長は3月1日(火)、宮城県を中心に東北一円で新聞を発行している地方紙・河北新報社を表敬訪問し、一力雅彦社長ら同社幹部に、東北地域の高校生にも十文字学園女子大学の教育理念に関心を持ってもらい、本学入学を志してほしい考えを伝えた。

23年度からの本学改組と軌を一にするように、東北新幹線に「はやぶさ」が導入され首都圏との距離感が縮まり、これを機に東北の代表紙を通して東北地域の学生に本学女子教育の取り組みを理解してもらうのがねらいだ。

宮城県の涌谷町は、十文字理事長の祖父、そして十

文字学園創設者・十文字こと先生の夫である十文字大元氏ら代々の墳墓の地である。また、仙台市在住の横須賀学長は、宮城教育大学長時代から河北新報紙上で随筆などを多く執筆し、一力社長はじめ同社編集幹部と交流を重ねてきた。

十文字理事長は席上、一力社長に対し、「御縁の深い仙台はもとより、東北全体に十文字学園の教育理念を浸透させたい」との気持ちと、一力社長も「最近、新聞の教育的な意義を見直す動きが高まっており、地方紙としての務めを果たしたい」と、NIE*運動の展開も含めて、地域と生きる意気込みを語った。

* NIE=Newspaper in Educationの略。教育現場で新聞を活用すること。



①一力社長(中央)ら幹部に挨拶する十文字理事長(右奥)。②左から一力社長、十文字理事長、横須賀学長。



家庭の生活の作法を本学教員から発信

流田教授監修「せいかつの図鑑」が20万部を突破

人間生活学部児童教育学科の流田直教授が監修し、小学館の「子ども図鑑」シリーズとして昨年3月に発売された「せいかつの図鑑」が6刷を重ね、発行数が20万部を突破するほどの人気を呼んでいる。

生活の知恵や作法を集めたこの図鑑の発行がきっかけとなり、今年2月には、流田教授による本学の講義「初等家庭科指導法」の様子がNHK総合テレビの「ゆとりときネットワーク」で放映された。「生活」を原点とし、家庭で楽しく学ぶことの大切さが、本学から日本全国に発信されている。

「せいかつの図鑑」は全191ページ、オールカラーで、誌面には子どもたちの心が躍るような楽しいイラスト、マンガ、写真を多用。「衣」「食」「住」をテーマとし、例え

ば「衣」では「せんたくものをたたもう」「食」では「台所にある道具」「住」では「わしきトイレをつかってみよう」など、計85項目の知恵や作法を取りあげている。

流田教授は「例えば、「ヒジについて食べるのは一緒に食事している人に失礼」といった作法を親から教わることは、子どもにとって決してお金では買えない貴重な経験。この図鑑が、デジタル機器やアウトソーシングに頼りがちな現代の暮らしを見直し、日本人のかけがえのない生活様式を守るための参考になればうれしいです」と話している。



自らが監修した「せいかつの図鑑」を手にし、笑顔を見せる流田教授。

平成22年度 学業成績優秀者

立派に学問を修め、栄誉に輝いた卒業生18名

卒業学年対象の学業成績優秀者として社会情報学部4名、人間生活学部10名、短期大学部4名に対し、表彰状と副賞が贈られた。

社会情報学部	社会情報学科	居山理穂 茂呂静香
	コミュニケーション学科	池田由佳 滝本美帆
人間生活学部	児童幼児教育学科 幼児教育専攻	太田友香 熊谷さおり
	児童幼児教育学科 児童教育専攻	河野百恵 渡邊真希恵
	食物栄養学科	熊切佳慧 渡部洋子
	人間福祉学科	小熊李菜 原田由貴子
短期大学部	人間発達心理学科	大澤美沙 田島綾
	文学科国語国文専攻	宮田亜由美 嶋根なつみ
	文学科英語英文専攻	荒井由香 栗原千鶴子

「わたしと建学理念」作文コンクールを実施
学生の作文、7編に優良賞

昨年8月に「女性と情報研究センター」の事業として、第2回「わたしと建学理念」作文コンクールを実施した。このコンクールは、現代を生きる私たちの言葉で、十文字学園の建学理念や創立者・十文字こと先生の生き方について語りあうことがねらいだ。短期大学部から18編、人間生活学部から1編、計19編の応募があり、優良賞として7編が選ばれた。今回、最優秀賞は該当なしとなった。優良賞の作文は小

冊子にまとめ、後輩に建学理念を伝える教材とする予定。同窓生や教職員の作品も歓迎しているので、次回コンクールでぜひ応募してほしい。 (女性と情報研究センター)



こと先生の銅像の前で。受賞した学生の皆さん。

十文字理事長が
ラジオ日本で語る



十文字一夫理事長が2月24日(木)、ラジオ日本「こんにちには!」の「鶴時靖夫です」に出演し、十文字学園の教学の精神をリスナーに伝えた。4月からの新しい教育体制や読書教育の効用などについても、自らの経験を踏まえて熱く語った。

事務局長に
瀬倉通利氏

本学事務局長に瀬倉通利氏が4月1日(金)付で就任した。瀬倉氏は文部科学省大臣官房勤務等を経て福島大学事務局長を務めた。就任直前まで大震災の対応に追われていた。伝統ある十文字学園で勤務でき光栄です」と話している。



今年度から
留学生別科の改革を実施

日本文化の体験学習が充実
生活クラスによる万全なケア

大学の改組と並行して改革を進めてきた留学生別科の教育体制の充実策が固まり、23年度から実施されている。それにとまない、これまでキャンパス内に分散していた別科生の教室は、9号館にある5つの教室にまとめられた。今回の改革による主な改善点は次の3つ。

- 「日本文化理解科目」の充実
23年度からは、従来の茶道・生け花・着付け・農家訪問などの授業を一層充実させることで、学生の満足度を高める。また、本学の教員も協力し、特別講義を行う予定だ。
- 生活クラスと土曜の授業
学生のメンタルケアを重視する生活クラスを設け、学生の学修上の悩みに対応。基本的な授業は月・金曜日に集約し、土曜日は基礎学習の補講、日本語能力試験1級などの取得のため、補講を計画。
- 秋期入学生(半期延長組)は、留学生別科で日本語を1年半勉強して本学学部・短大へ入学するケースが一般的だが、別科の授業以外に、本科(短大・学部)の履修を認める。



留学生別科の教室がある9号館。

若桐会だより

このたびの東日本大震災により、甚大な被害を受けた方々に、衷心よりお見舞い申し上げます。一日も早く復旧されますことを心から祈り申し上げます。

第43回
「若桐会総会」開催のご案内

日時・平成23年6月5日(日)12時より
場所・本学7号館1階力フエテリア

総会は、22年度事業報告・会計報告、23年度事業計画案・予算案を審議し、続いて懇親会を開催いたします。懇親会では恩師とともに卒業生が部会ごとにテーブルを囲み、近況報告や情報交換をしながら美味しい料理をお楽しみいただけます。

会員の皆様お誘い合わせのうえ、多数ご出席くださいますようお願い申し上げます。同封の出欠席はがき



昨年の若桐会総会。宮丸学長のご挨拶。

に必要事項をご記入のうえ、ご投函ください。

※詳細については、この「新座だより」と一緒に「若桐会総会のご案内」を同封いたしましたので、ご覧いただきますようお願い申し上げます。



食物栄養部の皆さん。

第4回還暦のお祝い
還暦を迎えた卒業生を
若桐会総会にご招待!

「招待の卒業生・昭和46年3月卒業生」ご招待の学科名:家政科・幼児教育科

本年も「還暦を迎えた卒業生」を若桐会総会へご招待いたします。同窓会創立40周年記念行事として始めたこの企画も、おかげ様で皆様からご好評をいただき、本年度4回目を迎えることとなりました。還暦を迎えられた皆様はとも若々しく、久しぶりに旧友との再会を喜ぶ姿がとても印象的です。

卒業から40年、すてきな歩みを重ね、今、人生の折り返し点を迎えられる4期生の皆様に、ささやかではありますが、心をこめて「還暦のお祝い」を申し上げます。十文字という縁で結ばれた心のバトンを力強くつ

なぎ続けていきましょう。

家政科・幼児教育科4期生の皆様、お誘いあわせのうえ、ぜひ母校へお運びいただきますようお願い申し上げます。多くの方のご出席をお待ち申し上げます。同封の「出欠席はがき」に必要事項をご記入のうえ、ご投函ください。



還暦を迎えた卒業生を囲んで。

住所、氏名等の変更は本学同窓会「若桐会」までご連絡ください

十文字学園若桐会 各部会 (卒業学科)
TEL: 048-477-0555 (代表)
FAX: 048-478-9367
※卒業学科・卒業年を必ず明記のうえお送りください。

オープンキャンパス&編入学・大学院入試情報

オープンキャンパス	編入学入試	大学院入試
日程▶ 5月22日(日)、6月19日(日) 7月10日(日)・24日(日)・31日(日) 8月21日(日) 9月11日(日)・25日(日) 10月9日(日) 11月27日(日)、12月11日(日)	■募集学部学科/編入学年次/募集定員 <社会情報学部> 社会情報学科/3年次/5名 コミュニケーション学科/3年次/5名 <人間生活学部> 児童幼児教育学科幼児教育専攻/3年次/10名 人間福祉学科(社会福祉コース)/3年次/5名 人間発達心理学科/3年次/5名 ■編入学相談日程 オープンキャンパス開催日に編入学相談を	■募集科/募集定員 人間生活学研究科食物栄養学専攻/5名 社会人選抜もあります。
時間▶ 13:00~16:00 内容▶ 学科紹介、学生と話そうコーナー、学科別個別相談、入試相談、アカデミック展示、在学生によるキャンパスツアーなど ※入退場自由、事前予約不要。各詳細は本学ホームページをご覧ください。		
【お問い合わせ】 募集・入試センター フリーダイヤル:0120-8164-10 E-mail:boshuu@jumonji-u.ac.jp		

Extension News

公開講座のご案内——大学開放・地域連携推進センターから

平成23年4月より、エクステンションセンターおよび地域連携協力推進センターは、大学開放・地域連携推進センターに変わりました。

2011年度5月~8月の公開講座

今年度も下記のとおり公開講座を開催します。ふるってご参加ください。
 公開講座のお知らせは、本学ホームページにも掲載しています。

- 生活情報学科公開講座**
「生活に役立つ情報講座」(全6回)
- 第1回 「パソコンネットワーク活用術講座」**
日時▶ 5月28日(土) 13:00~16:00
講師▶ 田倉 昭(人間生活学部生活情報学科教授)
定員▶ 24名
- 第2回 「今、日本市場で何がおきているか——マーケティング論から考えるデフレバイラルのしくみ——」(講義形式)**
日時▶ 6月4日(土) 13:00~15:00
コーディネーター▶
 星野 敦子(人間生活学部生活情報学科教授)
講師▶ 崎山嗣夫氏(本学非常勤講師・立命館大学客員教授)
- 定員▶** 150名
- 第3回 「コンピュータグラフィックス入門講座」**
日時▶ 6月18日(土) 13:00~16:00
講師▶ 栗原隆史(人間生活学部生活情報学科教授)
定員▶ 25名
- 第4回 「Linux入門講座」**
日時▶ 6月25日(土) 13:00~16:00
講師▶ 牧村信之(人間生活学部生活情報学科教授)
定員▶ 25名
- 第5回 「表計算ソフトウェア活用講座」**
日時▶ 7月9日(土) 13:00~16:00
講師▶ 新行内康慈(人間生活学部生活情報学科准教授)
定員▶ 25名
 ※第6回は後期に開催する予定です。

- 国語国文学会講演会**
「異文化を生きる 日本から韓国へ・韓国から日本へ」
日時▶ 5月28日(土) 13:30~15:00
コーディネーター▶ 武田比呂男
 (短期大学部文芸学教授)
講師▶ 藤原倫己氏(タレント・俳優)
 チョ・ヒ氏(韓国語学校校長)
定員▶ 200名(一般枠50名)

- 十文字学園女子大学幼児教育研究会**
第37回幼児教育研修会
「保育の基本:「本気で遊ぶ」を考える」
日時▶ 8月6日(土) 9:30~16:30
コーディネーター▶
 ▶上垣内伸子(人間生活学部幼児教育学科教授)、横井紘子(人間生活学部幼児教育学科専任講師)
講師▶ 杉原 隆(人間生活学部幼児教育学科特任教授)
定員▶ 200名
会費▶ 一般 3000円、学生 1000円

- 予約方法/お問い合わせ先**
 参加ご希望の方は、各講座の1カ月前よりご予約ください。先着順で定員になり次第締め切ります。
- ◆生活情報学科公開講座「生活に役立つ情報講座」**
 1回ごとのお申し込みになります。第2回以

外の実習形式の講座はパソコンの基本操作ができる方が対象です。メールでご予約ください。第2回については、電話・メール・FAXのいずれかでご予約ください。

- ◆国語国文学会講演会**
 電話・メール・FAXのいずれかでお申し込みください。

お申し込み・お問い合わせ先
 大学開放・地域連携推進センター
 E-mail:ext@jumonji-u.ac.jp
 TEL:048-477-0958(直通)
 ※平日9時~17時、土曜日9時~13時
 FAX:048-477-0764
 受講希望の講座名及び日にち・氏名(ふりがな)、電話番号・講座をお知りになった媒体をご記入のうえ、お申し込みください。
 ※メールでのお申し込みの場合は、「受付完了」の返信メールが届いた時点で「受付完了」となります。

- ◆第37回幼児教育研修会**
 お申し込み・お問い合わせは人間生活学部幼児教育学科まで。
 電話048-477-0555 (代表)

【受講料について】
 全講座無料
 (8月6日:第37回幼児教育研修会を除く)

日本政府代表として国連で演説 男女共同参画推進の取り組みを紹介

2011年2月下旬、「国際連合婦人の地位委員会」日本代表としてニューヨークの国連本部に出張した橋本ヒロ子副学長。女性の地位向上に向けて果たした役割と、国連の女性関連機関の現況について報告が届いた。



国名のプレートを立てて議長に質問する橋本副学長。

日本政府代表団議席。

2月22日(火)から3月4日(金)まで「完全雇用とダイバーシティワークへの女性の平等なアクセスの推進を含む教育・訓練・科学・技術への女性と女性のアクセスと参画」を優先テーマとして開催された第55回国連婦人の地位委員会(CSW)に日本政府代表として参加しました。
 CSWは世界の女性の地位向上のために、1946年にルーズベルト大統領夫人などが中心になって設立した委員会、45カ国がメンバーです。メンバーでない147カ国も参加できますが、決議など投票で決めるとき、投票権はありません。今回は、「気候変動政策とジェンダー」「女性・少女とHIVとエイズ」「パレスティナ女性の支援」の3本の決議案を採択。合意結論については、深夜におよぶ議論にもかかわらず、会期の最終日までつれこみましたが、3月14日(月)に採択に至りました。70以上の国から大臣級の代表が参加し、

市川房枝先生の働きかけで民間人が日本政府代表になっている私の演説は80分目くらいでした。演説は5分厳守で5分が経過すると赤ランプがつき、議長が中断します。演説では、日本政府が男女共同参画推進のために2010年12月に閣議決定となった第3次男女共同参画計画に関して、特に女性研究者支援について言及しました。
 日本は科学技術者における女性の割合がOECD諸国で最低なので、政府も女性研究者支援を行っています。日本学術会議の女性会員が20%を超えているのは英米の類似機関と比べても多く、トップの意思があると成功する例として、紹介しました。
 ジェンダー統計、女兒に対する暴力などのパネルもあり、1回は発言しました。



女兒に対する暴力パネル。3人の少女たちが報告。

日本政府代表団。

Profile

はしもと・ひろこ◎副学長、人間生活学部生活情報学科教授。カリフォルニア大学パークレー校図書館情報学修士課程修了。広島大学附属図書館参考調査係主任、国立婦人教育会館情報交流課長、国連アジア太平洋経済社会委員会開発と女性課社会問題専門官を経て現職。内閣府アフガニスタン女性支援懇談会委員、外務省ODA評価有識者会議委員など、学外社会活動も多数。
[研究分野] 男女平等政策、女性情報 **[担当科目]** 国際協力論、ジェンダーと開発、女性情報論

した記念式典や行事の実施でした。事務局長に任命された前チリ大統領のミッシェル・バチエリさんは、軍事大臣、保健大臣の経験もあり、国連事務総長よりもリ더라고、行動力などがあるという印象を受けました。
 (橋本ヒロ子 記)